

ふたば

田富中第2学年 学年通信

～青学年全員の挑戦譚～

22.10.3 (Mon)

新リーダーたちふたば

文責：佐野 亮祐 (24)

気づき、考え、行動する。

すべては日常に詰まっていた。

週間天気に一喜一憂しながら迎えた当日。前日までの雨予報が嘘だったように晴れ渡った八ヶ岳の下で、農林体験学習を無事に行うことができました。「働く」こと、「SDGs」で今自分にできることを事前に学習し、また、評議会を中心に、マナーや身だしなみをきちんとする取り組みを行い、当日に臨みました。開校式では大人の仕事（常に100点を求められること）という厳しいお話がありました。「1日大人は8時間～12時間働いている。今日は2時間程度の労働になるけれども、それを一生懸命やってほしい」こと、そして『実際に働いてみて、感じたこと、思ったこと』を自分で考え発表すること、を施設の方との約束として活動がスタートしました。非日常の活動。誰かのための作業。衛生面にも十分に気を配り防護服を着ながらの作業。危険な道具を使用したり、命に係わる高所での作業。私たちの当たり前はこういった活動をしてくださっている方々に支えられているのだと痛感しました。例えば、給食時に当たり前に飲んでいる牛乳。でも、その牛乳を生産するために本当に骨の折れる作業を丁寧にしてくださっている。簡単に残すことなんてできないな、そう思いました。午後の森づくりでも、木を真っすぐ育てるために手間のかかる草取りや不必要な木々を切り、細かく切りそろえる経験をさせてもらいました。何かをなすためにはそういった地道な作業が、根気強い作業が、みんながよく口にする「面倒くさい」作業が必要なのだと実感できたのではないのでしょうか。みんなから出てきた活動後の感想発表では、「適当ではなく、一つひとつのことを丁寧に、集中してやっていくことの大切さを学んだ」「大変だからやらないのではなく、その目の前にあるものに一生懸命に取り組むことが大切だと思った」など自分たちの心からの言葉を聞くことができました。貴重な体験を、みんなにわかりやすく丁寧に教えてくださった施設の方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。

さて、一生懸命に取り組んだからこそ次なる課題が見えてきます。私は学年全体を見ながら「農林体験学習という非日常のみんなの姿いつも学校にいるときのみんなの姿は変わらないな」と思いました。だからこそ、日常を大切に生活を送る必要性を強く感じました。あいさつを爽やかにすること、時間を守ること、やるべきことに一生懸命に取り組むこと、目上の方には丁寧な言葉遣いをする、みんなで協力すると、自分で動き出すこと…など。そのどれもが1学期から取り組んできたことです。今の自分の行動は本当に正しいのか、まずは気づくことです。時には気づかされることもあるでしょう。その時は『素直』に受け入れ、どうすべきか考えるのです。そして考えたら、即刻行動に移すのです。これが10月の目標「**気づき、考え、行動する**」です。



農林体験学習

働くことの大変さ

新たに気づかされた

自分たちの課題



我慢強くならねば！

